

# りぷろ Vol.3 2000年春号

# にゅーす

## CONTENTS

- しばらくでした。
- 「女と男、カラダの関係」
- 市民企画講座・実施報告
- リプロ掲示板

編集・発行  
〒980-0021  
仙台市青葉区中央4-7-25 ライオンズMS205号  
「リプロヘルス・ネットワーク」事務局  
TEL.FAX 022-227-0052

## しばらくでした。

リプロヘルス・ネットワーク代表 長池 博子

皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

リプロヘルス・ネットワークでは、昨年年度初めに「仙台市主催・市民企画講座」に企画応募いたしましたところ、これが採用され、「大切にしよう、お互いの性と生」をテーマに、全3回の講演並びにショートドラマ&ディスカッションの講座を実施いたしました。参加して下さった方々から「大変勉強になった」という多くの感想をいただき、この企画に取り組んだスタッフにとっても、自分たちの活動をあらためて見直し、反省するよい材料となりました。またショートドラマの演出を担当して下さった演劇プロデューサーの吉川由美さん、10代の性行動とその危険性についてお話くださいました仙台市中央警察署生活安全課の遠藤和子さん、全3回の講座を授業の一環として取り入れて、多くの学生さんの参加を促して下さいました東北学院大学の遠藤恵子先生など、多くの方々にご協力をいただき、あらためて感謝いたしております。

女性が自分らしく生きるため、生涯健康であるための知識(医学的なものだけでなく、心の問題や社会的にも自分らしく生きられる環境が整備されるための知識)の向上をめざして活動している当ネットワークでは、昨年その関連行事にも参加いたしました。

昨年10月、中国のチベットから女性代表団が初めて来日。それも仙台空港に北京から直行するという記念すべき出来事がありました。チベットにおける女性の人権問題についてのお話を直接聞くことができるまたと

ないチャンスと考え、女性各団体に呼びかけて歓迎会実行委員会を組織することになり、当ネットワークも参加しました。日頃あまり耳にする機会のないチベットの女性の社会的地位についての様々なお話をうかがい、大変有意義な時間でした。

また代表の私が「男女共同参画社会づくり功労者内閣官房長官表彰」の申し出をいただき、思いがけないことでしたが、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの目的に沿った表彰でしたので、会の励みとしてお受けいたしました。その「祝う会」の開催にあたって、事務局では多くの時間がとられました。

このように様々な催し、行事が重なり、この間「りぷろにゅーす」を発行することができませんでした。今後は予定どおりの発行をめざしますので、これまでの事情をご了承くださいます。これからのご協力をよろしくお願い申し上げます。

### ■平成11年度の活動を振り返って。

- 平成11年6月 平成11年度総会開催  
《仙台市主催市民企画講座》  
第1回講座「原ひろ子先生講演会」  
(4月/企画応募・5月/採用決定)
- 8月 「チベット女性代表団」歓迎実行委員会参加
- 10月 (市民企画講座)第2回講座「自分らしく生きたいから…」
- 11月 (市民企画講座)第3回講座「愛してるって言えるなら…」
- 平成12年2月 第6回・りぷろさろん「ビルと上手に付き合いたい」
- 4月 りぷろにゅーす3号発行

# 女と男 カラダの 関係

グループJ ©宗片恵美子



**私** たちグループJは、女性のからだと心をテーマに中絶・避妊に取り組んできました。どれも女と男の関係をぬきにしては考えられないことです。本来なら、妊娠も出産も中絶も二人の関係の結果を引き受けるのは女性なので、女性自身が自分のからだにもっと主体的でなければならないはずですが、でも実際にはなんと多くの女性たちが自分のからだを男性まかせにしてきたことでしょう。

**私** たちは平成11年3月、避妊についての本を出しました。この本をつくるために、100人の男女に避妊に関するアンケート調査を行いました。結果は「夫が避妊に協力してくれない」「避妊のことなど女の口から言いだすものではないと思っている」「夫がコンドームが嫌いで、妊娠したくない私はセックスのたびに恐怖」など、二人の性関係が必ずしも豊かでない現実を伝えています。女性にはいつもセックスをすれば妊娠するかもしれないという予感があります。だから「産む、産まない」をめぐる、妊娠もコントロールしたいと思います。しかし「コンドームをつけて」と言えない私がいって、「妊娠したくない」という私がいる。そこには、女性は受け身であるべきという固定観念の中で自分の性を語ってこなかった女性たちの姿があります。セックスについても、「自分の欲求を伝えられない」「暴力的なセックスに悩んでいる」「セックスが苦痛でもう長い間セックスレス」など、いかにありのままの性を表現していないかがわかります。

→ のような女性と男の関係はいうまでもなく女性の健康と深くかかわっています。セックスを通してうつる性感染症も男性より女性の方が危険性が高く、取り返しのつかない後遺症を起こすこともあるといわれています。そして妊娠したくない場合も、完全な避妊法がない以上、予期しない妊娠は起きます。たとえパートナーがコンドームで避妊するとしても、正しく使わなければ失敗はあります。それなら私のからだで避妊を実行しようという選択にも、それぞれのリスクは伴います。私たちが本づくりをするきっかけとなった「ピル」についても、男性はなんのわずらわしさもないままに、なぜ女性だけが副作用などのリスクを覚悟で避妊をしなければならないのか、最も女と男のコミュニケーションを欠く避妊法だという主張もあります。そして、望まない妊娠や中絶に心身ともに深く傷つく女性たちのそばには「一緒に困る」「一緒に悩む」男性の姿は、なかなか見られません。

セ ックス・避妊・出産・不妊・中絶すべてが女と男二人の間に起こる出来事である以上、そこに生まれる関係性は決しておろそかにできないものです。女性は自分のからだのしくみやリズムをよく知った上で、自分の気持ちやからだの状況をパートナーに伝える、男性はパートナーの心とからだの健康に配慮し、パートナーの選択を支持する。そんな二人の間にこそ、豊かな性関係が生まれてくるように思われてなりません。そしてもちろん、そこには日常の二人の関係が問われることはいうまでもありません。

## 平成11年度

## 「仙台市市民企画講座」を終えて



## リプロヘルス・ネットワーク企画「大切にしよう、お互いの性と生」

リプロヘルス・ネットワークでは、仙台市の委託事業として、平成11年6月より『大切にしよう、お互いの性と生』をテーマに全3回の講座を企画・実施しました。その目的は「女性が自分の性についての事柄を自分で決定することの大切さ」を知り、それを実現するための「パートナーとのよりよい関係づくり」を考えていこうというものです。

平成12年2月19日、「仙台市市民企画講座」の参加5グループによる報告会が行われました。それぞれの講座の内容とあわせて、今後活動を継続していくための様々な課題が報告され、4名の審査員による講評もいただいて、平成11年度の企画講座がすべて終了しました。ここであらためてリプロヘルス・ネットワークの講座を振り返ってみます。

## 実施目的とその内容

## 第1回講座

講演「女性が自分らしく生きるために—  
日本の現実と課題」

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授・原ひろ子先生による講演では、日本の中に根づいている女性の人権に関わる問題点を、男性側との関わりも盛り込んで解説していただき、また国連や国の施策にはどのような力が働き、どのようにつくられていくか、それを変えていくためにはみんなが声をあげていかなければならないことなど、「女性が健康に生きることが、社会を明るくすることにつながる」と感じさせるメッセージもいただき、参加者にも大変好評でした。

## 第2回・第3回講座

『ショートドラマ&ディスカッション』

ショートドラマでは、それぞれの年代で身近におこり得る女性のからだと心の出来事が演じられ、それを観た後、参加者によるフリーディスカッション、専門家の解説やアドバイスを行うという内容です。

第2回講座のテーマは「自分らしく生きたいから…」。30代以降の女性を対象に、「子宮摘出」「結婚後の家族計画」を取り上げました。

第3回は「愛してるって言えるなら…」。高校生生の「妊娠と避妊」「危険と隣り合わせの性行動」を取り上げました。

参加者はいずれの回も20代の女性が圧倒的に多く、当

初対象とした世代とは異なりましたが、ドラマ終了後のディスカッションは活発に行われました。

## 評価および今後の課題

企画講座の審査員の評価は全体的に大変よく、特に企画内容、運営面に高い評価を得ました。反面、仙台市が目的とした仙台市男女共同参画事業との連携の面ではこのままでは難しいのではないかという意見がありました。確かに会員のネットワークによって、専門家のボランティア参加をいただいたことで予算内で運営・実施することができましたが、通常では謝礼や経費負担がかさみ、容易には実施できない企画ではありました。

大きな反省点としては、映像による記録を考えなかったことがあげられます。特に高校生を対象とした3回目の講座は、ショートドラマを公開用に録画しておけば、演出・出演の方たちの了解のもと、各高校で話し合うための素材として貸出しもできただけに、実施時に後の活用を考えなかったことが今更ながら悔やまれます。

今後の活動には今回の経験を活かし、また多くの会員の参加やご意見をいただきながら、より充実した活動を行っていきます。



## 企画講座に寄せられた参加者の声・感想

- 「女性の人権について女性の被害者意識ばかりが強調される講演もあり、これには反発を感じていたのですが、原先生の男性との関わりを盛り込んだ話の内容には好感がもてた」・「世界や日本の施策や意識を変えていくために何が必要かという先生の明確な主張に勇気づけられた」
- 「自分らしく生きるためには、からだのことも含めて自分自身のことをよく知ることの重要性を感じた」
- 「妊娠や子宮摘出が、女性にとってどれほど重要なことを男性はよく知らないと思う。お互いをもっと理解し合い、責任を持って話し合うことが大切さだ」
- 「時代が変化しているにもかかわらず、女性のからだに対する社会的な偏見はまだ多い。子供ができなくても、一人の人間として世間(社会)が見てくれる時代になればいいと思った」

- 「自分を大切にすることは、自分の考えを相手にはっきり伝えることだ」
- 「妊娠や中絶などについて、情報はあっても、基本的な知識がないことを痛感した」
- 「性や妊娠に対する男女の考え方の違いを知った」
- 「現代の中高校生の奔放な性行動の実態に驚き、またそれがどれほど危険と隣り合わせているかを知った」
- 「10代から60代まで幅広い世代の意見が聞けてよかった」
- 「性についてオープンに語ることのできる、こうした機会がもっとあるといい」



## 総会・研修会開催のご案内

- 平成12年度総会および研修会を開催いたします。
  - ・日時:5月15日(月)18:30~21:00
  - ・場所:仙台駅前「アエル」5階・セミナーB

### 《研修会》(会員限定)

「働く女性の妊娠と出産」講師:村口喜代先生

女性の社会進出が高まっていく現代社会の中で、働く女性はどのように妊娠・出産をとらえていけばいいのか、少子化の問題とあわせて、女性のからだの側面からこうした問題について考えていきます。

※会員の方は別送ご案内の返信はがきに必要な事項をご記入のうえ、5月8日までにご返送ください。

※会員以外の方は、会員申し込みを受け付けております。詳しくは事務局までお問い合わせください。

## 事務局から

長池博子代表の回顧録「女性よ賢くあれ」を取り扱っています。

昨年12月に出版されました同回顧録を会員特別価格で販売しています。

1冊2000円です。お申し込みは事務局あてに電話もしくはファックスで。在庫が数少なくなっていますのでお早めに。

インターネットをご利用の方へ

催しのご案内やお知らせなどをEメールでお送りできるようになりました。ご希望の方はメールアドレスをお知らせください。

メールアドレス repro-sendai@mn.newweb.ne.jp